

薬剤師卒後初期臨床研修 プログラム (Ver.1)

2025年4月1日策定

札幌医科大学附属病院
薬剤部

1. 理念・基本方針

<理念>

地域における薬剤師確保の観点から、様々な疾患の基本的な薬物療法を理解し、チーム医療への参画や最適な薬物療法の実践、および地域医療のニーズに対応できるプロフェッショナル臨床薬剤師を育成する。

<基本方針>

- (1) 薬剤師としての基本的な調剤スキルと専門的な臨床能力を修得する。
- (2) 一般的な診療科ならびに救急・ICU 部門において、様々な疾患に対する薬物療法を修得する。
- (3) 多職種連携を通してチーム医療における薬剤師の役割を理解し、科学的な思考力と実践力を修得する。

2. 研修プログラムの管理運営体制

(1) プログラム責任者

薬剤部長 福土 将秀

役割: 研修プログラムの統括

(2) 研修管理者

指導薬剤師 稲村 広敏

役割: 研修プログラムが円滑に実施されるよう研修の管理を行う。研修薬剤師および研修担当者の精神的負担や体調管理にも配慮し、必要に応じ助言やフィードバックを行う。研修期間内に各カリキュラムで定める到達目標が達成できるよう総合的な支援を行う。

(3) 研修担当者

調剤係長

薬品管理係長

製剤係長

病棟薬剤業務係長

薬剤管理指導主査

感染制御主査

外来腫瘍化学療法主査

役割: 研修プログラムの実施、報告書の作成等の指導および支援。

(4) 研修評価委員会

薬剤部運営連絡会議(毎月開催)の下に設置

構成委員: 薬剤師(薬剤部運営連絡会議メンバー)および医師(数名)等

役割: 研修プログラムの内容や評価方法等について定期的に評価し、見直しを行う。また、研修実施状況について、薬剤部運営連絡会議への報告および修了認定に関する最終判定を行う。

3. 研修プログラム

- (1) 本プログラムは、札幌医科大学附属病院薬剤部または病棟で研修を行い、単年度(1年間)で修了とする。
- (2) 中央業務研修(基本的薬剤師業務)
- ・4月～6月
調剤係、薬品管理係、製剤係、各部署研修 …… 全日
 - ・7月以降
調剤係、薬品管理係又は製剤係のいずれかの部署で毎日4時間程度 …… 午前
- 【追加研修】
- ・10月～2月
DI、麻薬/手術室、治験、外来腫瘍化学療法、感染制御で1週間の短期研修 …… 午前
 - ・3月
症例報告の準備 …… 午前
- (3) 病棟業務研修
- ・7月～9月 内科系、10～12月 外科系、1月～3月 EICU/HCU、ICU、NICU 等
毎日4時間程度 …… 午後
- (4) チーム医療研修
- ・7月以降
各チームで適宜実施 …… 午後

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研修部門	午前 (中央部門)	～別紙～ 新人薬剤師3ヶ月 研修スケジュール			調剤 薬品管理 製剤			調剤 薬品管理 製剤					
	午後 (病棟部門・ チーム医療)				病棟 (内科系)	病棟 (外科系)		DI	麻薬 手術室	治験	外来腫瘍 化学療法	感染制御 ・TDM	症例報告 準備
		チーム医療: ICT、AST、NST、緩和ケア、褥瘡											
研修評価	研修薬剤師			○			○			○			○
	研修担当者			○			○			○			○
	研修評価 委員会			○			○			○			○

4. 一般目標

豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する。

1. 薬剤師としての心構え

医療の担い手として豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師の義務および法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感および倫理感を有する。

2. 患者・生活者本位の視点

患者の人権を尊重し、患者およびその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。

3. コミュニケーション能力

患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。

4. チーム医療への参画

医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。

5. 薬物療法における実践的能力

薬物療法を主体的に計画・実施・評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。

6. 探求能力

医学・医療ならびに医療薬学の発展に資するために、新たな情報や知識を自ら進んで追求し、医療現場での課題に対して適切な解決策を見出す力を有する。

7. 自己研鑽

医学・医療ならびに医療薬学の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と姿勢を有する。

5. 行動目標

1. 医療人として必要な基本姿勢・態度

(1) 患者—薬剤師関係

患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立するために、

- 1) 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。
- 2) 薬剤師、患者・家族がともに納得できる医療を行うための服薬指導が実施できる。
- 3) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。

(2) チーム医療

医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調するために、

- 1) 上級薬剤師や専門薬剤師に適切なタイミングで相談ができる。
- 2) 上級薬剤師や同僚薬剤師、他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。
- 3) 同僚及び後輩へ教育的配慮ができる。
- 4) 患者の入退院に関する情報を正しく把握できる。

(3) 問題対応能力

患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身に付けるために、

- 1) 薬物治療上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる(EBMの実践ができる)。
- 2) 自己評価及び第三者による評価を踏まえた問題対応能力の改善ができる。
- 3) 臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つ。
- 4) 自己管理能力を身に付け、生涯にわたり薬剤師としての能力の向上に努める。

(4) 安全管理

患者及び医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付け、危機管理に参画するために、

- 1) 調剤を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる。
- 2) 医療事故防止及び事故後の対処について、医療安全対策マニュアルなどに沿って行動できる。
- 3) 院内感染対策(スタンダードプリコーションを含む)を理解し、実施できる。
- 4) 医薬品の適正使用に関する情報を積極的に収集し、実践できる。

(5) 症例呈示

チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な症例呈示と意見交換を行うために、

- 1) 症例呈示と討論ができる。
- 2) 臨床症例に関するカンファレンスや学術集会に参加する。

(6) 医療の社会性

医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献するために、

- 1) 保健医療法規・制度を理解し、適切に行動できる。
- 2) 医療保険、公費負担医療を理解し、適切に行動できる。
- 3) 医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。
- 4) 医薬品や医療用具による健康被害の発生防止について理解し、適切に行動できる。

6. 経験目標

1. 処方箋に基づく調剤

(1) 処方箋と疑義照会

- 1) 調剤業務に関わる法的文書(処方箋、調剤録等)の適切な記載と保存・管理ができる。
- 2) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。
- 3) 処方箋の記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。
- 4) 注射薬処方箋の記載事項(医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認できる。
- 5) 処方箋の正しい記載方法を例示できる。
- 6) 薬歴、診療録、患者の状態から処方that妥当であるか判断できる。
- 7) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。

(2) 処方箋に基づく医薬品の調製

- 1) 処方箋に従って計数・計量調剤ができる。
- 2) 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。
- 3) 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。
- 4) 注射処方箋に従って注射薬調剤ができる。
- 5) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。
- 6) 注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を実施できる。
- 7) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。
- 8) 特別な注意を要する医薬品(毒薬・劇薬、麻薬・向精神薬、ハイリスク薬等)の調剤と適切な取扱いができる。
- 9) 調製された薬剤に対して、鑑査が実施できる。

(3) 患者応対、服薬指導、患者教育

- 1) 患者に合わせて適切な応対ができる。
- 2) 患者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。
- 3) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。
- 4) 患者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。
- 5) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等、特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な応対ができる。
- 6) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。
- 7) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。

(4) 医薬品の供給と管理

- 1) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。
- 2) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。
- 3) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。
- 4) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。
- 5) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いができる。

(5) 安全管理

- 1) 特にリスクの高い代表的な医薬品(ハイリスク薬等)の安全管理を実践する。
- 2) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。
- 3) 施設内のインシデント(ヒヤリハット)の事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。
- 4) 施設内の安全管理指針を遵守する。
- 5) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。
- 6) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。
- 7) 院内での感染対策(予防、蔓延防止など)について具体的な提案ができる。

2. 薬物療法の実践

(1) 患者情報の把握

- 1) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。
- 2) 患者・来局者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。
- 3) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。

(2) 医薬品情報の収集と活用

- 1) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。
- 2) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。
- 3) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供ができる。
- 4) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工することができる。
- 5) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。

(3) 処方設計と提案

- 1) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。
- 2) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。
- 3) 患者の状態(疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等)や薬剤の特徴(作用機序や製剤的性質等)に基づき、適切な処方を提案できる。
- 4) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。
- 5) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。
- 6) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。
- 7) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な医薬品を選択できる。
- 8) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。

(4) 薬物療法における効果と副作用の評価

- 1) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。
- 2) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定を提案できる。
- 3) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。

- 4) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。
- 5) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。
- 6) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。
- 7) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。
- 8) 報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。
- 9) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。
- 10) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。

3. チーム医療への参画

- (1) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。
- (2) 医師・看護師等の他職種と患者の状態(病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化(治療効果、副作用、心理状態、QOL等)の情報を共有する。
- (3) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議(カンファレンスや患者回診への参加等)する。
- (4) 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者に対する最善の薬物療法の提案を実践する。
- (5) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。
- (6) 院内の多様な医療チーム(ICT、AST、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)の活動に薬剤師の立場で参加し、情報を共有する。
- (7) 地域における医療機関や薬局薬剤師との連携を実践する。

【参考資料】

- ・「医療機関における新人薬剤師の研修プログラムの基本的考え方」(一般社団法人日本病院薬剤師会)
- ・「薬剤師臨床研修ガイドライン」(厚生労働省 令和6年3月)

札幌医科大学附属病院薬剤部 新人薬剤師3ヶ月研修スケジュール

氏名

オリエンテーション

4/1 8:45 辞令交付式

10:00~17:00 薬剤部長、副部長、薬剤主任

期間 (週数)	研修内容 (指導薬剤師)	研修内容 (指導薬剤師)
4/●~5/● (6w)	8:45~12:30 (昼休12:30~13:30) 調剤 (調剤係長) 麻薬 (麻薬係長)	13:30~17:30 薬品管理 (薬品管理係長) DI (薬品情報係長) MS (薬剤主任) 但し、15:30~17:30は配属部署
5/●~5/● (2w)	製剤 (製剤係長) 化学療法 (外来腫瘍化学療法主査)	製剤 (製剤係長) 化学療法 (外来腫瘍化学療法主査)
5/●~5/● (1w)	病棟薬剤業務 (病棟薬剤業務係長・薬剤管理指導主査・感染制御主査)	病棟薬剤業務 (病棟薬剤業務係長・薬剤管理指導主査・感染制御主査)
5/●~6/● (2w)	薬品管理 (薬品管理係長)	薬品管理 (薬品管理係長) 但し、15:30~17:30は配属部署
6/●~6/● (2w)	調剤 (調剤係長) 麻薬 (麻薬係長)	治験 (治験主査) 但し、15:30~17:30は配属部署

薬剤師卒後初期臨床研修

調剤研修 評価票

研修生 氏名 : _____

研修期間 : 年 月 日 ~ 年 月 日

評価者 : 調剤係長 _____ 印

=====

【評価方法】

以下の 5 段階で評価する。

1 : 極めて良くない、2 : 良くない、3 : 標準、4 : 優秀、5 : 極めて優秀

また、「研修に対する姿勢」および「対人関係・態度」については

以下の 3 段階で評価する。

1 : 極めて良くない、3 : 良くない、5 : 標準

=====

1. 調剤業務に関連した知識と技能

- 1) 基本的知識の研修目標到達度 [1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
- 2) 基本的技能の研修目標到達度 [1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
- 3) 各業務における薬剤師の役割と義務に対する理解度 [1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]

2. 研修に対する姿勢

- 1) 精勤度（遅刻・早退・欠勤時の連絡を含む） [1 ・ 3 ・ 5]
- 2) 服装・身だしなみ [1 ・ 3 ・ 5]
- 3) 積極性・自主性 [1 ・ 3 ・ 5]

3. 対人関係・態度

- 1) 薬剤部内の職員と良好なコミュニケーションがとれ、協調性をもって取り組めた [1 ・ 3 ・ 5]
- 2) 他部門の医療従事者と良好なコミュニケーションがとれた [1 ・ 3 ・ 5]

4. 総合評価 [1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]

コメント（総合評価が 1 または 2 の場合は必ずコメントをお願いします）

薬剤師卒後初期臨床研修

薬品管理研修 評価票

研修生氏名： _____

研修期間： 年 月 日～ 年 月 日

評価者：薬品管理係長 _____ 印

=====

【評価方法】

以下の 5 段階で評価する。

1：極めて良くない、2：良くない、3：標準、4：優秀、5：極めて優秀

また、「研修に対する姿勢」および「対人関係・態度」については

以下の 3 段階で評価する。

1：極めて良くない、3：良くない、5：標準

=====

1. 薬品管理業務に関連した知識と技能

- 1) 基本的知識の研修目標到達度 [1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
- 2) 基本的技能の研修目標到達度 [1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
- 3) 各業務における薬剤師の役割と義務に対する理解度 [1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]

2. 研修に対する姿勢

- 1) 精勤度（遅刻・早退・欠勤時の連絡を含む） [1 ・ 3 ・ 5]
- 2) 服装・身だしなみ [1 ・ 3 ・ 5]
- 3) 積極性・自主性 [1 ・ 3 ・ 5]

3. 対人関係・態度

- 1) 薬剤部内の職員と良好なコミュニケーションがとれ、協調性をもって取り組めた [1 ・ 3 ・ 5]
- 2) 他部門の医療従事者と良好なコミュニケーションがとれた [1 ・ 3 ・ 5]

4. 総合評価 [1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]

コメント（総合評価が1または2の場合は必ずコメントをお願いします）

薬剤師卒後初期臨床研修

製剤研修 評価票

研修生氏名： _____

研修期間： 年 月 日 ～ 年 月 日

評価者：製剤係長 _____ 印

=====

【評価方法】

以下の 5 段階で評価する。

1：極めて良くない、2：良くない、3：標準、4：優秀、5：極めて優秀

また、「研修に対する姿勢」および「対人関係・態度」については

以下の 3 段階で評価する。

1：極めて良くない、3：良くない、5：標準

=====

1. 製剤業務に関連した知識と技能

- 1) 基本的知識の研修目標到達度 [1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
- 2) 基本的技能の研修目標到達度 [1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
- 3) 各業務における薬剤師の役割と義務に対する理解度 [1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]

2. 研修に対する姿勢

- 1) 精勤度（遅刻・早退・欠勤時の連絡を含む） [1 ・ 3 ・ 5]
- 2) 服装・身だしなみ [1 ・ 3 ・ 5]
- 3) 積極性・自主性 [1 ・ 3 ・ 5]

3. 対人関係・態度

- 1) 薬剤部内の職員と良好なコミュニケーションがとれ、協調性をもって取り組めた [1 ・ 3 ・ 5]
- 2) 他部門の医療従事者と良好なコミュニケーションがとれた [1 ・ 3 ・ 5]

4. 総合評価 [1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]

コメント（総合評価が1または2の場合は必ずコメントをお願いします）

薬剤師卒後初期臨床研修
病棟研修 評価票

研修生 氏名： _____

研修期間： 年 月 日 ～ 年 月 日

評価者：病棟薬剤係長 _____ 印

=====

【評価方法】

以下の 5 段階で評価する。

1：極めて良くない、 2：良くない、 3：標準、 4：優秀、 5：極めて優秀

また、「研修に対する姿勢」および「対人関係・態度」については

以下の 3 段階で評価する。

1：極めて良くない、 3：良くない、 5：標準

=====

1. 臨床知識と技能

- 1) 基本的知識の研修目標到達度 [1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
- 2) 基本的技能の研修目標到達度 [1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
- 3) 疑義照会ができた [1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
- 4) 適切な服薬指導を実施して薬剤師記録が記載できた [1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]

2. 研修に対する姿勢

- 1) 精勤度（遅刻・早退・欠勤時の連絡を含む） [1 ・ 3 ・ 5]
- 2) 服装・身だしなみ [1 ・ 3 ・ 5]
- 3) 積極性・自主性 [1 ・ 3 ・ 5]

3. 対人関係・態度

- 1) 薬剤部内の職員と良好なコミュニケーションがとれ、協調性をもって取り組めた [1 ・ 3 ・ 5]
- 2) 患者あるいは家族と良好なコミュニケーションがとれた [1 ・ 3 ・ 5]
- 3) 医療チーム内で良好なコミュニケーションがとれた [1 ・ 3 ・ 5]
- 4) 挨拶や患者面談時の言葉遣いが適切であった [1 ・ 3 ・ 5]

4. 総合評価 [1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]

コメント（総合評価が1または2の場合は必ずコメントをお願いします）



第 号

修了証書

殿

あなたは「令和 年度薬剤師卒後初期臨床研修」
を修了しましたことを証します。

研修期間：令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日

令和 年 月 日

札幌医科大学附属病院

薬剤部長 福土 将秀